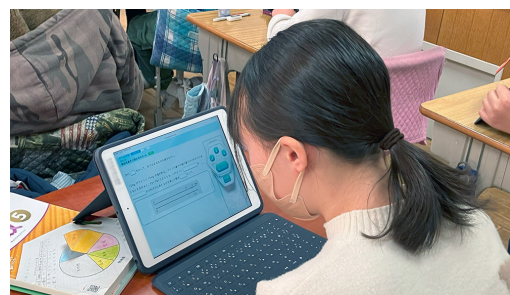
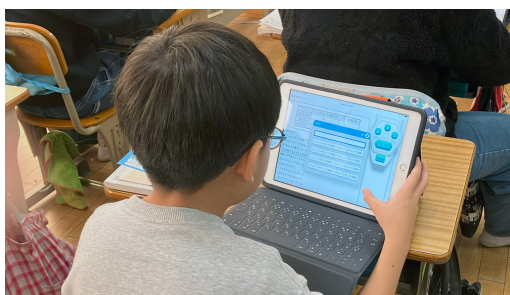


ライonz e ライブラリアドバンス

船橋小学校 活用実践



すすんで学ぶ 心豊かで
たくましい児童の育成

目次／Contents

01



5年 算数：割合

実践者 教諭 土田 麻由 氏

既習内容の復習と到達度の確認

割合の適用問題に入る前に、eライブラリのドリルで既習範囲の復習、そして、まとめて授業支援機能で到達度の確かめをしました。

03



5年 算数：速さ

A I型ドリルで苦手を補い、得意を伸ばす

単元の総まとめに、eライブラリの確認テストで理解度の確かめ、そして、学習結果から一人ひとりの理解状況に沿った課題を出題できる自動個別課題で既習範囲の復習をしました。

05



インタビュー

校長 渡邊 尚久 氏

『やりがいのある学校』を創る

船橋小学校の学校経営で大切にしていることや職員への働きかけ、eライブラリの活用を広めるための工夫などを伺いました。渡邊校長先生から温かい気持ちや思いを語っていただきました。

05



インタビュー

教務主任 高橋 宣允 氏

夏休みは、全教科の宿題を紙ワークからeライブラリへ

夏休みの宿題を紙ワークからeライブラリへ切り替えた経緯や先生・児童にとってのメリット、そして運用のポイントを伺いました。市内の先生に伝えたいという熱い思いを語っていただきました。

06



アンケート

eライブラリを活用した先生の感想

eライブラリを活用した先生から、よく利用している活用場面や児童の様子、活用することで得られた効果を伺いました。これからも継続的に活用していきたいという感想をいただきました。

07



アンケート

児童のアンケート結果

eライブラリで学習した感想を伺いました。「楽しく学習できる」「苦手が少なくなった」などさまざまな感想をいただきました。



e ライブラリの活用サイクル



既習内容の復習と到達度の確認

単元：割合

めあて 割合を使って問題を解こう

土田先生の授業では、児童の問題を解く力を養うために、さまざまな学習方法を取り入れています。割合の適用問題に入る本時では、eライブラリを既習範囲の復習、そして、到達度の確かめに活用していました。



実践の流れ

計算カードで繰り返し学習



5分

計算カードを使って、友達と競い合いながら計算練習をして、楽しみながら計算力を身につける。

前時の範囲を復習



15分

Point 1 児童は、前時の学習範囲をドリルで復習する。先生は、学習結果から理解状況を確認する。

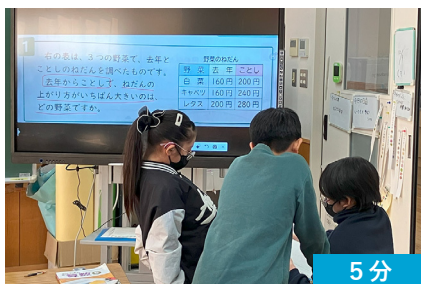
学習課題を個人で自力解決



5分

全員でめあてと学習課題を確認、解き方を個人で考える。

学習課題をグループに共有



5分

個人で考えたことを、グループで共有し、解き方を学び合う。

全体発表



5分

グループで考えた解き方を全体に発表して、最後に先生がポイントを解説する。

到達度確認・解答解説



10分

Point 2 授業支援機能で本時の到達度を確認する。（3回）

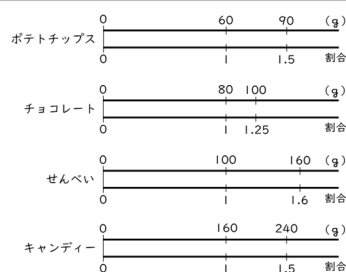
ドリル学習 小学5年 算数
割合 (1)
割合を表す小数 (1) [QDFDW18013★] 掲載

近所のスーパーのおかしフェアで、ねだんはいつもと同じまま、1ふくろに入っている量が増されたおかしが売られていました。下の表は、おかし4種類のいつもの量と増量後の量をまとめたものです。せっかくなので、いつもの量と比べていちばん増えぐあいが大きいものを買おうと思います。

おかし	いつもの量(g)	増量後の量(g)
ポテトチップス	60	90
チョコレート	80	100
せんべい	100	160
キャンディー	160	240

<考え方>

- ①いつもの量が ので、増量後の量が多いものや増えた量が多いものが、増えぐあいが大きいかわからない。
- ②このような場合に増えぐあいを比べるには、いつもの量に対して の量がどれだけにあたるかを比べるとよい。このような数を割合という。
- ③それぞれのおかしで増量後の量の割合を考えると、次の図のように表せる。



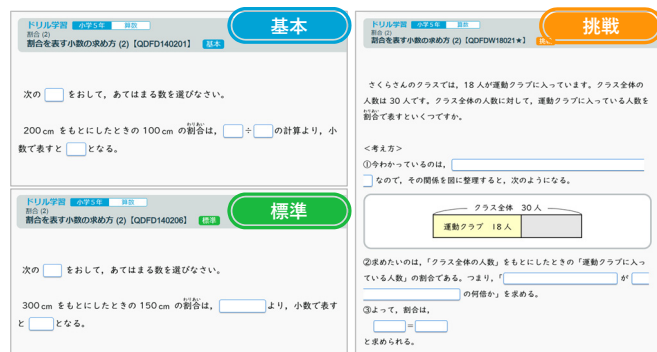
◆ドリル 単元：割合 (2)

前時の復習では、チャレンジ問題として、思考力育成問題に取り組む児童がいました。内容は、日常の場面に登場する「割合」を題材に、数量の関係に着目しながら、求めたい量について考える問題です。

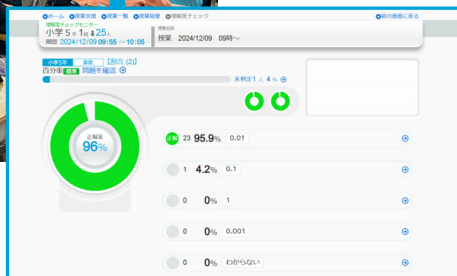
- ④いつもの量をもとにしたときの増量後の割合は、ポテトチップスは 、チョコレートは 、せんべいは 、キャンディーは である。
- ⑤割合で比べると、増えぐあいがいちばん大きいのは、割合が おかして、 だといえる。

授業進行上の先生の工夫

土田先生は、課題を出題できる「学習指示」と到達度を確認める「授業支援機能」を活用して授業を進めました。



割合の概念を学習できる「基本」、演習問題を中心に学習できる「標準」、発展的な内容や思考力育成問題で学習できる「挑戦」から選べる。



「理解度チェックモニター」

Point 1 『自分のためになる』レベルに取り組む

本時の学習に入る前に、先生から出題された課題で、前時の学習内容を復習しました。基礎的な内容を復習するために基本レベルから取り組む児童や、難しい問題にチャレンジしようと挑戦レベルの思考力育成問題から取り組む児童もいます。「思考力育成問題は、学力の高い児童でも難しいと感じる傾向にあります。だからこそ、さまざまな問題に触れる機会を設けたいと思っています。」と土田先生。各々が真剣な眼差しで、『自分のためになる』レベルを選んで取り組んでいました。

前時の内容を復習することで、グループ共有の時間では、根拠をもって解き方を学び合う姿が多く見られました。

Point 2 問題を一問出題して、到達度を確認める

授業の最後は、授業支援機能で本時の学習内容の到達度を確認しました。全員の準備が整うと、「今から問題を出します」という先生の掛け声で、一問目の問題が出題されます。児童は、問題を見ると学習メモ機能で筆算を書いて答えを導き出します。先生は理解度チェックモニターで正答率を見て、全体に励ましの言葉をかけながら、つまづいているポイントを解説します。二問目の問題が出題されると、正答率を上げられるように、クラスが一丸となり、集中して取り組みます。先生から「すごい！正答率が96%を越えたよ！」と伝えられると、全員が拍手をして喜んでいました。回数を重ねるごとに、児童の学習意欲が高まっていきました。

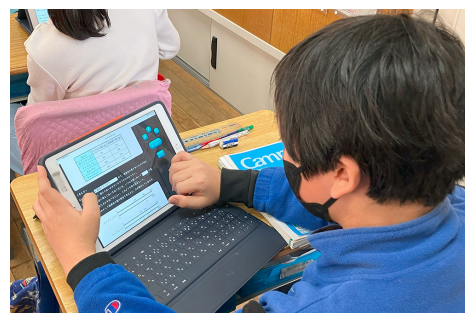
eライブラリで学習している児童の様子



つまづいた問題は、解答解説で解き方を確かめ、100点が取れるまでリトライしていました。



筆算が必要な問題は、学習メモ機能で、画面に途中式を書いて解いていました。



思考力育成問題は、既習範囲の知識を生かし、「考え方」を基に解答を導き出していました。

Interview

学習の積み重ねからメタ認知、そして主体的な学びへ

教諭 土田 麻由 氏

本時では、割合の応用問題に入るため、これまでに学習してきた「割合の求め方」「百分率」などの復習と到達度の確認をねらいにeライブラリを活用しました。本校では、地域の特色から理解状況や学習進度の異なる児童が多いです。基礎的な内容から順番に復習したり、文章題を読んで取り組める「思考力育成問題」にチャレンジしたりできるように、ドリルのレベルは、自分で選べるようにしました。4月からeライブラリで学習する方法を段階的に指導し、学習を積み重ねていくことで、今では児童も自らの学びをメタ認知しながら、主体的に取り組む力も身につけてきました。その結果、テストの得点も学力低位層の児童に前向きな変化が表れており、継続して活用してきて良かったと思っています。

今後は、自由進捗学習に活用していきたいと考えており、これまで以上にeライブラリの教材内容や効果的に活用できるタイミングを研究していきたいと考えています。



A I 型ドリルで苦手を補い、得意を伸ばす

单元：速さ

「速さ」のまとめの時間である本時では、e ライブラリの確認テストで理解度の確認と、一人ひとりの理解状況に沿った課題で既習範囲を復習しました。



実践の流れ

計算カードで繰り返し学習



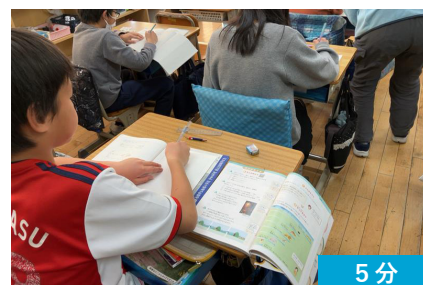
計算カードを使って、友達同士で計算練習をする。

教科書の演習問題で復習



スクリーンショットしたノート等
でポイントを確かめ、教科書の演
習問題に取り組む。

ふりかえり



気づきや次に学びたいことを、
ノートにまとめる。

確認テストで理解度確認



先生から出題された確認テストに取り組む。

個に応じた課題で復習



Point 1 確認テストとドリルの結果から構成される個に応じた課題に取り組む。

年間の総復習



Point 2 タイルマップ学習で、
6年間の算数の総復習をする。

次の ☐ をおして、あてはまるものを選びなさい。

3 時間で 150 km 進む自動車の速さは、
 $150 \div 3 = 50$,
 時速 50 km

である。

解答解説

◆ (道のり) = (速さ) × (時間) である。速さは時速 20 km、時間は 3 時間なので、道のりは

$$20 \times 3 = 60 (\text{km})$$

となる。

◆確認テスト 単元：速さ

本時は「速さ」の総復習で確認テストを実施しました。確認テストは、単元の重要な要素で構成されたテストで結果から学習要素ごとの理解状況がわかります。

◆ 復習教材

学習内容	今回の結果	ドリルは平均点	評価
速さの単位	○	-△-	よく理解できています。
速さの求め方	○	-△-	確かな理解を目指しましょう。
道のりの求め方	○	-△-	よく理解できています。
時間の変換	○	-△-	よく理解できています。
速さの単位の置き方（時速を分速で表す）	X	-△-	しっかりと復習しましょう。
速さの単位の置き方（秒速を分速で表す）	△	-△-	確かな理解を目指しましょう。

右側のナビゲーションメニュー:

- 学習メニュー
- 解説
- ドリルを印刷
- ドリルに挑戦
- 解説資料を確認
- もどる

右下には電卓アイコンが表示されています。

◆ 復習教材

確認テストの結果に応じて、児童の画面に復習教材がナビゲーションされます。確認テストが先に終わった児童は、復習教材で学習を進めることができます。

授業進行上の先生の工夫

土田先生は、授業の中盤に理解度を確かめる「確認テスト」と、学習結果により個に応じた課題が出題できる「自動個別課題」で定着を図りました。そして終盤は、6年間の算数を総復習できる「タイルマップ学習」を活用しました。



「理科：電流と電磁石」の場合

解説	小学5年	理科	電磁石の極の性質
ドリル	小学3年	理科	じしゃくのせいしつ
ドリル	小学5年	理科	電磁石の強さ

苦手



「算数：速さ」の場合

ドリル	小学5年	算数	時間の計算
ドリル	小学6年	算数	全体を1として考える問題
ドリル	小学5年	算数	単位量あたりの大きさ

得意

ドリルと確認テストの結果に応じて、個に応じた課題が構成される。7つの構成パターンから出題できる。

- 調整型
- 苦手をなくす
- 弱点を克服
- 得意をのばす
- テスト対策
- おさらい
- 集中講座※
- ※ 算数・数学のみ

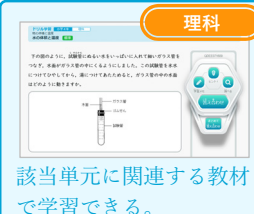
Point 1 A I 型ドリルで個に応じた課題を出題

教科書の演習問題の後、先生から「確認テスト」が出題されました。児童は、授業で学習した「速さ」の内容を思い出ししながら、真剣に取り組んでいます。確認テストが先に終わった児童は、画面に表示される復習教材から、つまずきに関連しているドリルや解説教材を主体的に取り組んでいました。

確認テストが終わると、土田先生は続けて「自動個別課題」を出題して、学習内容のさらなる定着を図ります。学習結果に応じて、一人ひとり異なる教材が構成されるため、児童は自分の理解状況に合った教材で復習できます。解説教材から公式を確かめたり、確認問題の例題にチャレンジしてからドリルに取り組んだり、自分のペースで復習していました。



単元・教材・レベルを選んで復習できる。



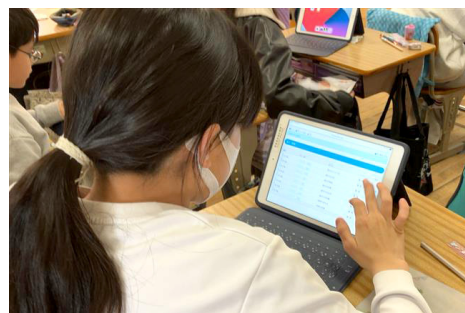
該当単元に関連する教材で学習できる。

教科・学習領域を絞って、タイルの濃淡から理解度や取組状況を掴み、復習できる。

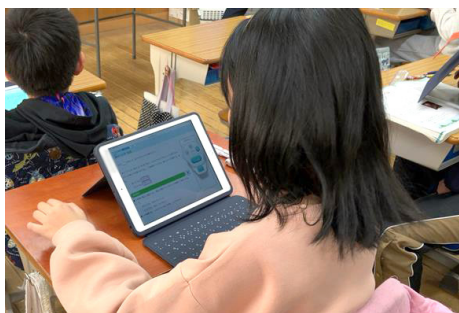
Point 2 理解度や取組状況を俯瞰して、学びの立ち位置を確認

授業の最後は、「タイルマップ学習」で6年間の学習内容を総復習します。児童は、タイルの色から理解度や取組状況を確認め、色のついていない教材から復習です。「ためしてみよう！」の教材に取り組む児童からは「あっ！理科が出てきた。この問題やってみたい」「正解できた！」と喜びの声が上がり、積極的に取り組んでいる姿が見られました。

e ライブラリで学習している児童の様子



「自動個別課題」に表示された教材を確認め、自分のペースで復習していました。



つまずいた問題は、解答解説で解き方確かめてからリトライをしていました。



タイルマップ学習から自分の理解状況を確認め、色のついていない教材に取り組んでいました。

Interview

「個別最適な学び」と「教材準備時間の最適化」

教諭 土田 麻由 氏



児童によって理解状況や興味・関心をもつ内容はさまざまで、一人ひとりに合った教材を準備するのは難しい状況でした。e ライブラリの自動個別課題は、理解度の低い児童には基礎的な内容を補う教材が出題され、理解度の高い児童には発展的な教材が出題できるため、「個別最適な学び」が実現します。授業で確認テストを実施した後に、宿題として自動個別課題を出題することもあり、多くの児童が興味・関心をもって取り組んでいます。

また、教員側も教材準備の時間が短縮され、「教材準備時間の最適化」につながっています。



『やりがいのある学校』を創る

校長 渡邊 尚久 氏

人間関係から生まれる学びの土台

本校では、児童にとって「学びがいのある」、教職員にとって「働きがいのある」、保護者にとって「支えがいのある」、すなわち全員が『やりがいのある学校』になることを第一に学校経営をしています。

その背景として、安心して学べる場が無いと、児童の学力は伸びていきませんと考えています。学力向上の一番のポイントは、まず、教職員と児童の人間関係、そして、児童と児童の人間関係が良好な状態で構築されることで、初めて授業が成り立ちます。そのため、それぞれが人間関係を構築し、全員が安心して学校生活を送れる学級経営を目指し、教職員が一丸となって取り組んでいます。今では、児童も教職員も安心して学校生活を送れるようになり、保護者や地域の方との関係性も良好で、率先して学校行事等に参加してくれるようになりました。

研鑽の心を持ち、一人一つの研究

本校の特色の一つとして、自由進度学習と同じように、毎年、教員一人ひとりが研究テーマを決め、モチベーション高く取り組んでいます。研究をする過程で、なかなか自身の勉強する時間を作れない教員もいます。そのため、勤務時間内に自己研鑽できるように、時間割を調整し、月に一度、外部講師を招いて研修の機会を設けるようにしています。研修は、教員からの要望や研究テーマに最適な内容で組んでおり、積極的に受講しています。

この取組を3年間継続しており、授業づくりへ向けた意識も高くなったと感じています。研究内容も、自身の中で留めるのではなく、研究全体会の場を設けて共有し、それぞれが次年度の研究に生かして実践するサイクルが定着しました。より良い学級経営のために、教員全員が研鑽の心を持ち、取り組めるのが本校の誇りです。

活用は「きっかけ」づくり



eライブラリは、思考力育成問題をはじめ、手書き教材など、児童の興味・関心を高めることができ、学校の実態に応じて活用できる場面がたくさんあると思います。操作は、感覚的に進められる教員も多いので、活用するための『きっかけ』をつくるのが大切です。そこでおすすめる方法は、ライズさんに短時間でソフトの全体概要を紹介してもらい、関心の高い教員から、広げていくのが良いと思います。少し説明が物足りないくらいが教員の関心を高め、教員の心理的な負担軽減にもつながり、「これなら使ってみようかな」という気持ちになると思います。

ICTは「学習の手段」。効果を発揮できるタイミングを見極めたい

小学校なので、ICTを活用する頻度に気をつけています。全国的な統計から見ると、児童のICTを活用するスキルは高くなっていますが、一方で書く力が低くなっており、それは、日頃から書く訓練をしていないことが一つの要因だと思います。そのため、教員には、ICTをむやみに使うのではなく、「学習の手段」として適切に使うよう伝え続けています。最も効果的に活用できるタイミングを見極めて使うために、今後も研鑽し続けていきたいと思っています。



夏休みは、全教科の宿題を紙ワークからeライブラリへ

教務主任 高橋 宣允 氏

eライブラリを夏休みの宿題にして良かった

eライブラリはコロナ禍の時期をきっかけに活用を始め、授業や長期欠席の児童に取り組みさせていました。そして、今年度から夏休みの宿題で購入していた紙ワーク（冊子）を廃止し、eライブラリに切り替えて運用を始めました。紙ワークを廃止した経緯は、毎年200円から400円かかる教材費が削減できる上に、採点の時間短縮にもなるからです。また、保護者の丸つけの負担もなくなるところも決め手になりました。

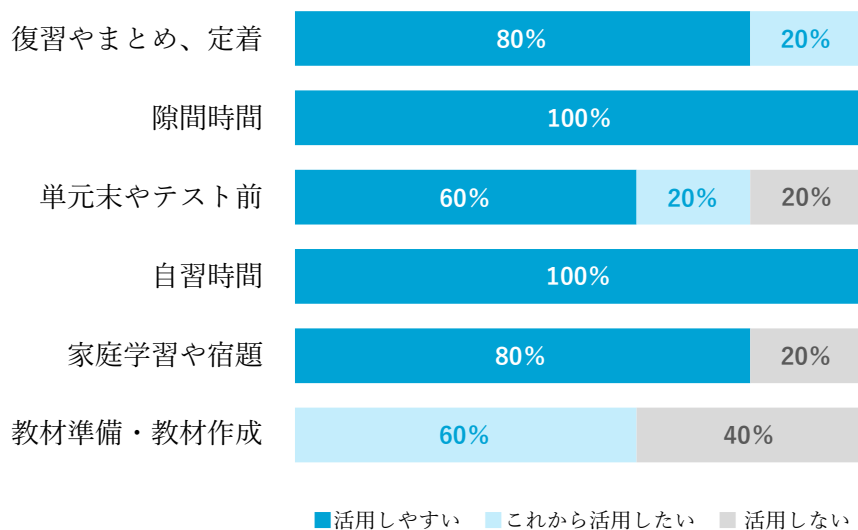
夏休みの宿題をeライブラリにしたことで、児童は紙ワークより抵抗なく取り組み、教員もその他の提出物を確認する時間が確保できるようになり、良かったと思っています。

クラス・個人の実態に沿って宿題の量を決める

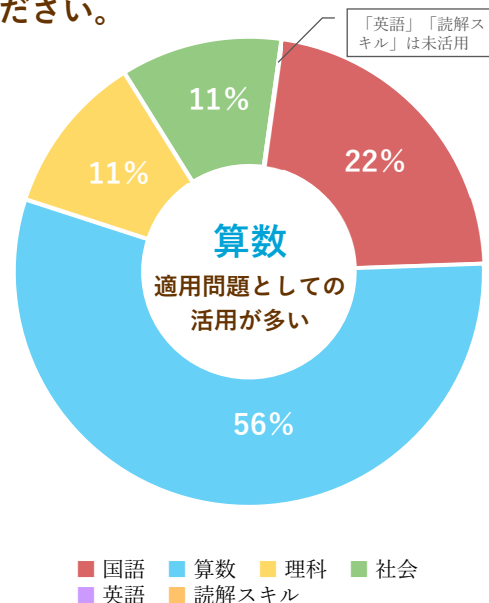
eライブラリから宿題を出すときは、出題範囲を学年ごとに話し合い、出題する教材量を担任が決めています。習熟度によって取り組める問題数が異なるため、児童がモチベーションを維持しながら取り組める量を見定めて出題することが大切です。また、児童が自分に合った学び方で主体的に学習できるように、宿題以外に「自由学習」での自主学習も薦めています。

船橋小学校の先生に、eライブラリについてのアンケートに協力いただきました。

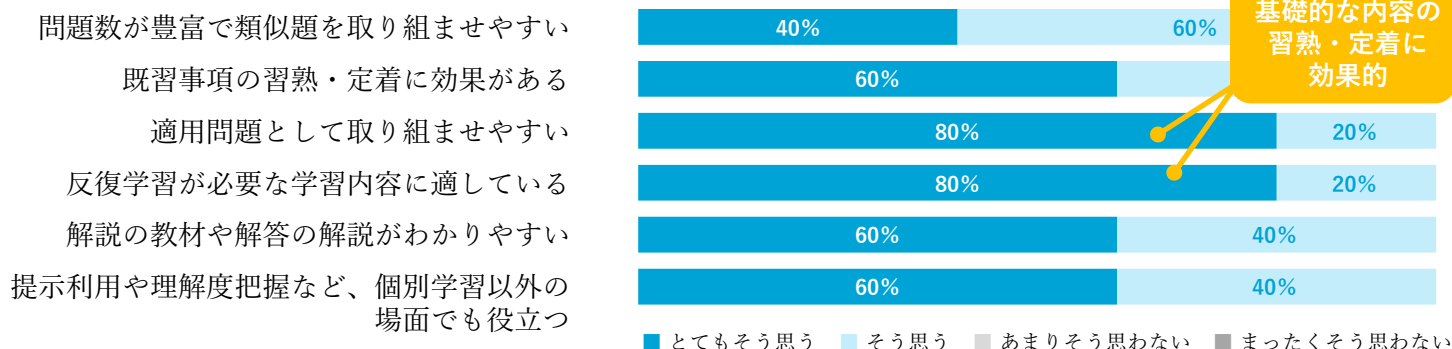
eライブラリの活用場面ごとの使用感を教えてください。



活用しやすいと感じた教科を教えてください。

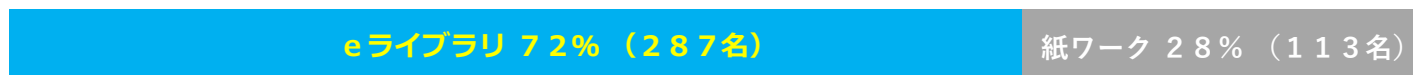


eライブラリを活用して、実感したことを教えてください。



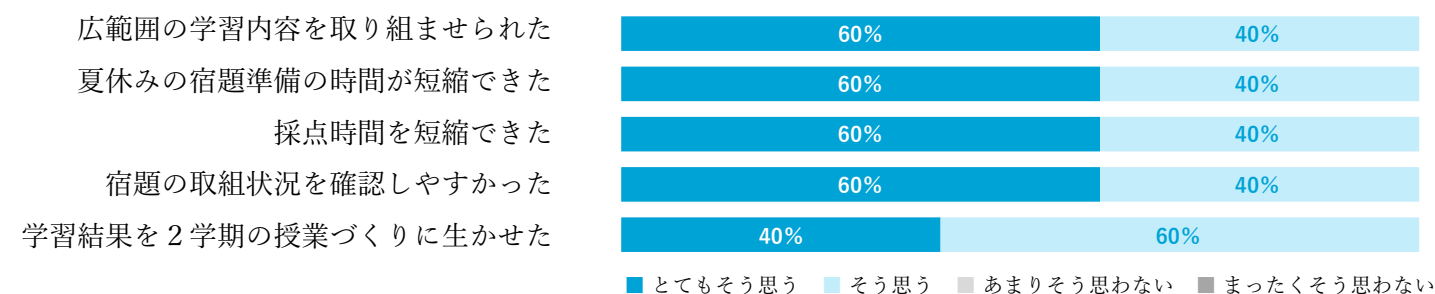
◆ 児童への質問

夏休みの宿題は、eライブラリと紙ワークでは、どちらが良いですか。

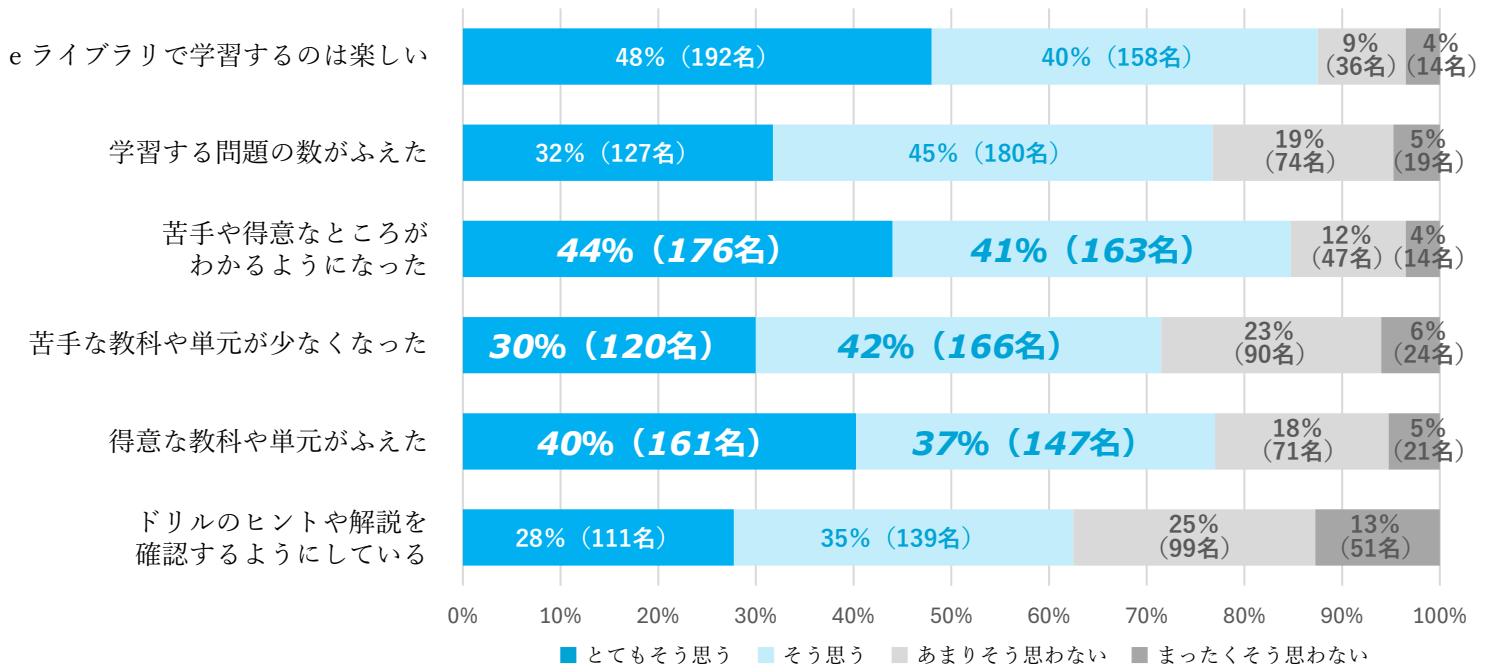


◆ 先生への質問

夏休みの宿題をeライブラリにして、実感したことを教えてください。



＼ **A I 型ドリルが個々の学習傾向から最適な問題を出題！** ／
70%以上が苦手を克服し、得意を伸ばした！



e ライブラリで学習した感想（1年～3年）

漢字が上手に書けるようになりました。

苦手な教科が少なくなって得意な教科が増えました。

すごく楽しくて、苦手なところも少なくなって e ライブラリがあって本当に良かったです。

いろいろな科目ができて良いなと思いました。

算数のひき算ができるようになりました。

手書きドリルをやっていて、「友達と合格増えたね」と話せて楽しいです。

e ライブラリをやって、わからない問題がわかるようになりました。

たんぽぽを大きくしながら勉強をしているのでがんばりやすいです。

手書きドリルがとても楽しいです。友達ともやってすごく楽しいです。

教科書にのってないこともわかって良いと思います。

学校の勉強が楽しく簡単にできるようになりました。

主語や述語などの使い方が良くわかりました。

紙より問題を答えやすいし、タブレット一台でいろいろな教科ができて使いやすいです。

一人でできるし、e ライブラリが、丸つけしてくれるので、うれしいです。

歴史を高学年の授業で学ぶのが楽しみです。

e ライブラリのおかげで算数の計算が速くなりました。

自分の苦手な学習を教えてくれるところが良いと思います。

苦手だった教科がなくなったし、問題をとくのに、そんなに時間がかからなくなりました。

2年生の勉強ができるようになってうれしいです！

嫌いな教科がへりました！勉強が得意になりました。

eライブラリで学習した感想（4年～6年）

eライブラリを使うと、花の種子からどんどん成長していった、やっていてとっても達成感がありました。そして、月にどれくらい問題をやったかも見ることができるので良いと思いました。問題も苦手なところを重点的にやることで苦手が少しずつ得意になっていったと思います！

タブレットで楽しく学習できるのがいいと思いました。また、全ての問題を解き終わった後に点数をつけてくれるのも良かったです。

たんぽぽの成長が進むにつれて楽しくなっていったので、学習の回数が増えました。

A I が自分に適した問題を出してくれて便利だなと思いました。

花が成長していて自分が成長しているんだと感ずるのが良いです。

学んだことをもう1度できるところが良いと思いました。

単元が、全て100点満点で終わった時の達成感がすごいから続けられます。

単元学習やおさらいなど様々な機能があって、夏休み中楽しく学習できました。

紙のワークよりもはっきりと自分の現状がわかって良かったです。

簡単な問題から発展まで選択できるので、苦手な単元の復習がしやすかったです。

eライブラリで自分の得意な教科が増えてうれしかったです。これからのeライブラリの学習も楽しみにしています。

eライブラリは、問題を解くとすぐに解答をしてくれて、もし間違っていたら解説のボタンを押すとわかりやすく説明してくれるので、すぐに何が間違っているのかわかるのが良いと思いました。

eライブラリで、いろいろなテストの範囲が学習できて、テストの点数が今年100点が多くなったのはeライブラリのおかげだと思っています。

勉強をやり終わったら、タイルマップの色がついていった達成感がとってもあってもっと色を塗ろうと思って勉強するようになってとっても良いです。

Interview

自然と『学びに向かう姿勢』が育つ

夏休みの宿題の取組状況を見ると、紙ワークより実施率が高く、普段宿題をやらない児童も、自分のできるところから取り組もうとする姿が見られました。iPadを使って学習できる楽しさと、自分の理解状況や学習進度に沿って学習できるeライブラリだからこその結果だと思っています。保護者からも「普段の学習では学べないことを学べて良かった」という声も届いています。また、本校では、夏休みチャレンジという、テーマを自分で設定して取り組む宿題もありますが、「eライブラリで頑張って学習して、夏休み中に花を咲かせよう」という目標にしている児童もいました。

日常の『活用』を越えたい！さらなるステップアップ

来年度は、教務主任として、学校全体でeライブラリを活用する場面をもっと増やしていきたいと思っています。教室に入りづらい児童や長期欠席の児童への学習ツールとして提供することで、学習状況を見取り、個別の支援にも生かしていけます。また、理解状況を授業づくりに生かしたり、頑張った児童に表彰状を授与したりもしたいです。クラスの実態に沿って教員から働きかけをすることで、児童の可能性をまだまだ広げることができると思います。船橋市全体でもっとeライブラリが広がっていったら良いなと願っています。



ラインズeライブラリアドバンス 活用実践

千葉県船橋市立船橋小学校

(2025年4月30日 発行)